

歴博 くらしの植物苑だより

第97回くらしの植物苑観察会 4月29日(日)

くらしの植物苑と下総の森 鈴木三男(東北大学植物園)

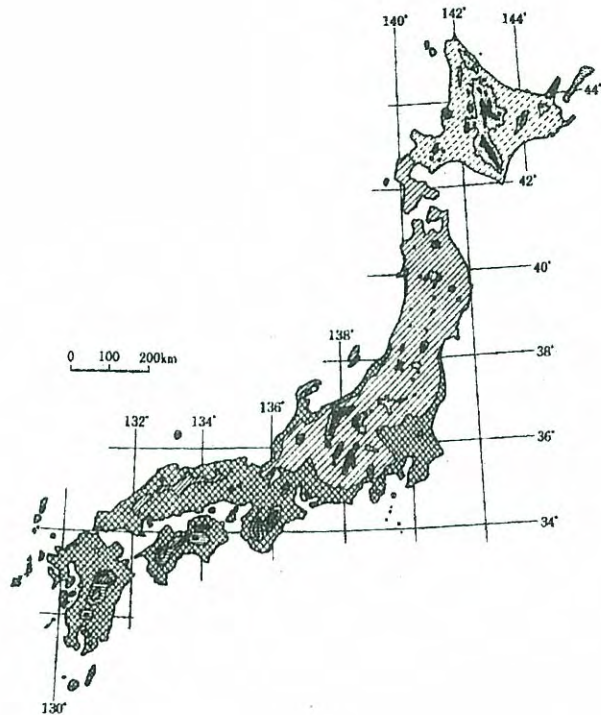
歴博のある佐倉城趾には立派な森があります。普段何気なく見ているこの森，その由来と成り立ちを考えてみましょう。

1. 日本の森林帯

現在の日本の植生

- 高山帯
- ▨ 亜高山帯針葉樹林
- ▧ 北方針広混交林
- ▩ 冷温帯落葉広葉樹林
- 暖温帯常緑広葉樹林
- 暖温帯落葉広葉樹林

安田喜憲「環境考古学事始め」より



関東地方は暖温帯常緑広葉樹林
に位置する

日本(を含む東アジア地域)では「暖温帯常緑広葉樹林」=「照葉(しょうよう)樹林」
照葉樹林：葉が大きく，表面がテカテカした常緑樹からなる林

(まるで熱帯林のようである)→熱帯林の樹木との違いは，冬芽をつくって休眠すること
照葉樹林を構成する主な樹木

ブナ科：シイ(スダジイ，コジイ)，カシ類(コナラ属のアカガシ亜属：アカガシ，シラカシ
...，コナラ亜属：ウバメガシ)，マテバシイ

クスノキ科：タブノキ，シロダモ，カゴノキ...，(クスノキ)

ツバキ科：ヤブツバキ，モッコク，サカキ，ヒサカキ...

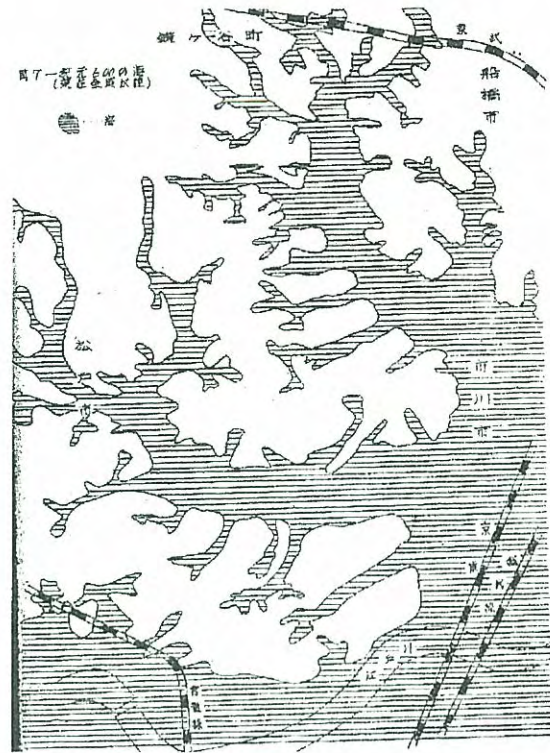
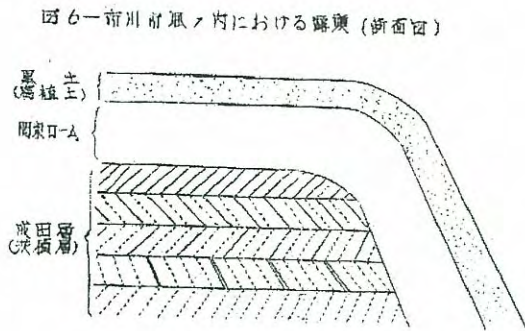
...
そのほかモチノキ(モチノキ科)，ユズリハ(ユズリハ科)，ヤマモモ(ヤマモモ科)，シキミ
(シキミ科)...

(暖温帯性の落葉樹)センダン(センダン科)，ムクロジ(ムクロジ科)，イイギリ(イイギリ
科)...

2. 下総の森

下総地方の特徴は台地地形にあります。標高20~40m程度の下総台地は第三紀末~第四紀の
海成層の上に火山灰層(関東ローム層)が乗った，極めて平坦な地形で，台地上面は水に乏
しく植物にとっては「快適」とはいえない環境です。一方この平坦な台地は第四紀の寒冷な

時期（氷河時代）に川による浸食で非常に多くの谷が樹枝状に刻まれました。約 6000 年前（新しい年代観では 7000 年？）前頃の温暖な時期（縄文温暖期，縄文時代前期）にはこの谷に海が奥深くまで入り込み，平坦な台地と奥深く入り組んだ内湾，と言う環境であったようです。



都立両国高校生物部誌
「かぶとむし」10号 (1964)
鈴木三男「千葉県市川市のシダ植物」より

その後，海退と河川が運んでくる土砂の堆積によってこの谷は埋め立てられ，湿地となります。台地上面には縄文人が集落を作り，それ以降，牧野，畑として利用されてきました。湿地は水田となり

（谷津田），結局森林が残されてきたのは台地上面と湿地の間の斜面部分で，ここに多少とも自然の植生が残されてきたと言えます。

しかし，実際には特に江戸時代以降の新田開発，畑地開発による人口増加が重なり，ここに残された自然にはおおくの人手が入ってきて，かなりの変質をしてきています。それを下総の森の構成樹木という観点から見ると，次の3つのグループになります。

- 1) 自然植生に由来すると言えるもの（照葉樹林の要素）
- 2) 人が木を伐り，利用してきたことによるもの（里山，二次林）
多くの落葉広葉樹：コナラ，クリ，イヌシデ，ケヤキ，エノキ，ムクノキ，コブシ，カラズザンショウ，アカメガシワ，ヌルデ，タラノキ，ヤマザクラ....
- 3) 人が植えたものおよびそれから拡まったもの：スギ，ヒノキ，サワラ，マツ，ケヤキ，ウルシ，ハゼノキ，クスノキ，竹類（モウソウチク，ハチク，ヤダケ，メダケなど）.....

3.城内の森

さて，佐倉城趾の森はどうなっているのでしょうか？上記の1)～3)の混ざり合ったものと言えますが，佐倉城，佐倉聯隊と，民間ではない土地利用が図られてきたこともあり，樹木が保護され，佐倉市周辺ではなかなか見ることができないような樹木も生育していることが期待されます。実際にどんな木が生えているか，それは一緒に回ってこの目で確かめてみましょう。

次回予告

○第98回くらしの植物苑観察会

2007年5月26日（土）「ハンカチノキとメタセコイヤー生きている化石ー」

百原 新（千葉大学園芸学部）

13:30～15:30（予定） 苑内休憩所集合 申込不要 要入苑料